

Handwritten text in vertical columns, likely a list or index of items, possibly related to medicinal herbs or botanical specimens. The text is dense and covers most of the lower half of the page.

Index or list of items, including names like 梅子 (ume), 山 (mountain), and 仙 (immortal), possibly indicating the source or classification of the items listed above.

Handwritten text in vertical columns, similar to the left page, containing a list or index of items. The text is dense and covers most of the lower half of the page.

Index or list of items, including names like 山 (mountain), 仙 (immortal), and 梅子 (ume), possibly indicating the source or classification of the items listed above.

後壇御扇御月次

天中鬼 波敷

地全 菊松 人主 茂松

素一 水 板衣 葉布 鹿丸 宗山

五印之部

Handwritten text in columns, including names like 天中鬼, 波敷, 地全, 菊松, 人主, 茂松, 素一, 水, 板衣, 葉布, 鹿丸, 宗山, and various smaller characters and symbols.

言日運を

天中鬼一

地全扇

人中雷殿

Large handwritten text block on the right page, including names like 天中鬼, 地全扇, 人中雷殿, and other characters, arranged in a structured layout.

海へ行く舟は... (Right page text)

扇	山	川	橋	井	新	扇	山
一	二	三	四	五	六	七	八
梅	桜	桃	杏	李	梨	栗	柿
松	竹	柳	桐	杉	楓	椿	槐
桂	栎	楊	柳	杉	松	竹	梅

海へ行く舟は... (Left page text)

扇	山	川	橋	井	新	扇	山
一	二	三	四	五	六	七	八
梅	桜	桃	杏	李	梨	栗	柿
松	竹	柳	桐	杉	楓	椿	槐
桂	栎	楊	柳	杉	松	竹	梅

藤垣抄扇倭月次

天正十一年 地 全 菊丸 人 共 十 花 玉

苗外 白壁を 梵苑 二津 女 兼 笠 竹 葉

五印之部

五月の月夜に 藤垣の扇に 月影を映して 花玉の如き 人共十名 菊丸の如き 地全の如き 苗外白壁を 梵苑二津女 兼笠竹葉

山花堂 山花堂 山花堂 山花堂 山花堂 山花堂 山花堂 山花堂 山花堂 山花堂

五月方 一 句 頁 十 音 十 余

當日運月

天 花 押 ち 扇 乃 人 牛 込

扇乃 花押 ち 扇乃 人 牛 込

扇乃 花押 ち 扇乃 人 牛 込

扇乃 花押 ち 扇乃 人 牛 込

扇乃 花押 ち 扇乃 人 牛 込

Vertical columns of dense handwritten Japanese text in kuzushiji style, filling the upper half of the page.

Horizontal lines of handwritten Japanese text at the bottom of the page, likely a signature or a list of names.

Vertical columns of dense handwritten Japanese text in kuzushiji style, filling the upper half of the page.

Horizontal lines of handwritten Japanese text at the bottom of the page, likely a signature or a list of names.

山竹の葉の影をうけて
夕陽の光がさす
静かなる庭の隅
花びらが舞い落ちる
月影が池面にうつり
水鏡に映る
遠くをゆく
旅人の足音
風が吹く
空を渡る
雲の影
木々の葉
揺れる
秋の気配
涼しい
夕暮
静寂
孤独
思ひ
恋
別れ
涙
微笑
希望
夢
現実
人生
死
生
愛
恨
情
義
忠
孝
節
義
廉
恥
勇
剛
毅
寛
厚
謙
遜
誠
信
孝
悌
忠
義
廉
恥
勇
剛
毅
寛
厚
謙
遜
誠
信

山竹の葉の影をうけて
夕陽の光がさす
静かなる庭の隅
花びらが舞い落ちる
月影が池面にうつり
水鏡に映る
遠くをゆく
旅人の足音
風が吹く
空を渡る
雲の影
木々の葉
揺れる
秋の気配
涼しい
夕暮
静寂
孤独
思ひ
恋
別れ
涙
微笑
希望
夢
現実
人生
死
生
愛
恨
情
義
忠
孝
節
義
廉
恥
勇
剛
毅
寛
厚
謙
遜
誠
信

山竹の葉の影をうけて
夕陽の光がさす
静かなる庭の隅
花びらが舞い落ちる
月影が池面にうつり
水鏡に映る
遠くをゆく
旅人の足音
風が吹く
空を渡る
雲の影
木々の葉
揺れる
秋の気配
涼しい
夕暮
静寂
孤独
思ひ
恋
別れ
涙
微笑
希望
夢
現実
人生
死
生
愛
恨
情
義
忠
孝
節
義
廉
恥
勇
剛
毅
寛
厚
謙
遜
誠
信

山竹の葉の影をうけて
夕陽の光がさす
静かなる庭の隅
花びらが舞い落ちる
月影が池面にうつり
水鏡に映る
遠くをゆく
旅人の足音
風が吹く
空を渡る
雲の影
木々の葉
揺れる
秋の気配
涼しい
夕暮
静寂
孤独
思ひ
恋
別れ
涙
微笑
希望
夢
現実
人生
死
生
愛
恨
情
義
忠
孝
節
義
廉
恥
勇
剛
毅
寛
厚
謙
遜
誠
信

藤垣好翁評月次

天之早扇暑

地十五 夏香

人十呂 支谷

畜外梅志

息一全

森あり 若月橋

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or list of items.

Small vertical text at the bottom of the page, possibly a signature or date.

當日運症

Handwritten text in vertical columns, likely a medical or diary entry.

Handwritten Japanese text in a vertical column, likely a list or index. The characters are densely packed and include various kanji and hiragana.

一ノ 二ノ 三ノ 四ノ 五ノ 六ノ 七ノ 八ノ 九ノ 十ノ

Horizontal line of handwritten text, possibly a title or a specific entry corresponding to the list above.

Handwritten Japanese text in a vertical column, similar in style to the left page, containing a list or index of items.

一ノ 二ノ 三ノ 四ノ 五ノ 六ノ 七ノ 八ノ 九ノ 十ノ

Horizontal line of handwritten text, similar to the left page, likely a title or entry.

丁をくや輪の菊のすりるる浮む月
 鬼灯の照の送りりあすの四
 去つほい月の送りりあすの
 菊のすりるる浮む月
 初秋をひろみて寄つ 雀の
 初秋をひろみて寄つ 雀の
 初秋をひろみて寄つ 雀の
 ... (text continues vertically) ...

水 山 房 倉 小 舟 橋 田 花
 月 夜 舟 花 山 雀 菊 初 秋
 ... (keywords and characters) ...

丁をくや輪の菊のすりるる浮む月
 鬼灯の照の送りりあすの四
 去つほい月の送りりあすの
 ... (text continues vertically) ...

水 山 房 倉 小 舟 橋 田 花
 月 夜 舟 花 山 雀 菊 初 秋
 ... (keywords and characters) ...

七月廿日
定會二花

轉をいふ宗をいふ...
 踊るやあまの...
 表...
 里...
 二...
 多...
 再考...
 蓮...
 七...
 吟...
 古...
 新...
 莫...
 大...
 花...
 人...

東...
 孫...
 六...
 名...
 星...
 月...
 日...
 馬...

庵主評

天 鬼一 地 翠樹 人 松竹
 天 雲丸 地 晶月 人 柳の倉

秀逸十平
 ひとり序集めて...
 小守日ひとりところや...
 秋の...
 画...
 今日...

馬の...
 松山...
 秋...
 深...

松竹
 柳司
 翠樹
 鬼一
 扇
 雲丸
 柳の倉
 晶月

おちく兼題

集仙樓評

天雪丸 地反書 人雀丸

再考十下

葉の考マツキ有てあり
心して雀も控く
るの秋通夜の山妻
籠れり

○ 旅人の出歩り

油のせぬんとなりぬ
今秋の秋

酒更くの良いころ
紅糸式

軸

記日ちくや今日ハ秋

兼日記

雪丸
雀丸

鬼一
扇松
机月

判者
炉扇

名垣 妙扇汗 月吹 丑八月分

天^{十七}白雪庵 地^早柳花 人^早本流 八重女

根のあはれり... 妙扇汗... 白雪庵... 柳花... 本流... 八重女...
根のあはれり... 妙扇汗... 白雪庵... 柳花... 本流... 八重女...
根のあはれり... 妙扇汗... 白雪庵... 柳花... 本流... 八重女...

市ノ下 川下 年止 噴き 泉系 松多 小橋 白
白雪庵 八重女 本流 柳花 扇松 机月 雀丸 雪丸

兵車

五愛亭

更名

披露

春夏

混題

句合



長巻

五更香

夏垣伴保評

天

正五言ノ下
番外 一桂 一窓 夏雪 采山 吐日
舞止 雙玉 松名 花川 雪白
人土土土一秀

秋ヤ、冬ノ、春ノ、夏ノ、
夕ノ、夜ノ、朝ノ、日ノ、
雨ノ、雪ノ、霧ノ、風ノ、

二シ
シ
ハ
童
女

同是書日通也
夏垣伴保評

天

再考十下ノ下
雨月地營社人島晴

再考六下ノ下
細シ苗下釣リノ
夕月
天

雙玉 松名 花川 雪白
霧白 霧白
東

床て及れいよ
細シ苗下釣リノ
夕月
天

見後 百毒 舞止 雙玉
全 付 判者
川 晴 保
判者 侍保

春夏三句合

藤愼評

天吉ト魚山 地五十一友 人辛湖霍

卷中七下ノア

日や春の気色... 藤愼評... 天吉ト魚山...

一カ... 二カ... 三カ... 四カ... 五カ... 六カ... 七カ...

集俤樓評

天吉 扇暑 地五十一友 人吉長樂

卷中七下ノア

五月の... 扇暑... 天吉...

一カ... 二カ... 三カ... 四カ...

一カ... 二カ... 三カ... 四カ... 五カ... 六カ...

おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき

長谷川
信上
田舎
山
川
池
水
田
山
川
池
水
田
山
川
池
水
田
山
川
池
水
田
山

おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき
おのれをたづねて出たりてなつかしき

長谷川
信上
田舎
山
川
池
水
田
山
川
池
水
田
山
川
池
水
田
山
川
池
水
田
山

若のあつた内... 二夜... 三夜... 四夜... 五夜... 六夜... 七夜... 八夜... 九夜... 十夜... 十一夜... 十二夜... 十三夜... 十四夜... 十五夜... 十六夜... 十七夜... 十八夜... 十九夜... 二十夜... 二十一夜... 二十二夜... 二十三夜... 二十四夜... 二十五夜... 二十六夜... 二十七夜... 二十八夜... 二十九夜... 三十夜... 三十一夜... 三十二夜... 三十三夜... 三十四夜... 三十五夜... 三十六夜... 三十七夜... 三十八夜... 三十九夜... 四十夜... 四十一夜... 四十二夜... 四十三夜... 四十四夜... 四十五夜... 四十六夜... 四十七夜... 四十八夜... 四十九夜... 五十夜... 五十一夜... 五十二夜... 五十三夜... 五十四夜... 五十五夜... 五十六夜... 五十七夜... 五十八夜... 五十九夜... 六十夜... 六十一夜... 六十二夜... 六十三夜... 六十四夜... 六十五夜... 六十六夜... 六十七夜... 六十八夜... 六十九夜... 七十夜... 七十一夜... 七十二夜... 七十三夜... 七十四夜... 七十五夜... 七十六夜... 七十七夜... 七十八夜... 七十九夜... 八十夜... 八十一夜... 八十二夜... 八十三夜... 八十四夜... 八十五夜... 八十六夜... 八十七夜... 八十八夜... 八十九夜... 九十夜... 九十一夜... 九十二夜... 九十三夜... 九十四夜... 九十五夜... 九十六夜... 九十七夜... 九十八夜... 九十九夜... 百夜...

新井 地味 岩水 人 五 逢 無

芳 貴 堂 笑 山 評

天 二 新 井 地 味 岩 水 人 五 逢 無

若のあつた内... 二夜... 三夜... 四夜... 五夜... 六夜... 七夜... 八夜... 九夜... 十夜... 十一夜... 十二夜... 十三夜... 十四夜... 十五夜... 十六夜... 十七夜... 十八夜... 十九夜... 二十夜... 二十一夜... 二十二夜... 二十三夜... 二十四夜... 二十五夜... 二十六夜... 二十七夜... 二十八夜... 二十九夜... 三十夜... 三十一夜... 三十二夜... 三十三夜... 三十四夜... 三十五夜... 三十六夜... 三十七夜... 三十八夜... 三十九夜... 四十夜... 四十一夜... 四十二夜... 四十三夜... 四十四夜... 四十五夜... 四十六夜... 四十七夜... 四十八夜... 四十九夜... 五十夜... 五十一夜... 五十二夜... 五十三夜... 五十四夜... 五十五夜... 五十六夜... 五十七夜... 五十八夜... 五十九夜... 六十夜... 六十一夜... 六十二夜... 六十三夜... 六十四夜... 六十五夜... 六十六夜... 六十七夜... 六十八夜... 六十九夜... 七十夜... 七十一夜... 七十二夜... 七十三夜... 七十四夜... 七十五夜... 七十六夜... 七十七夜... 七十八夜... 七十九夜... 八十夜... 八十一夜... 八十二夜... 八十三夜... 八十四夜... 八十五夜... 八十六夜... 八十七夜... 八十八夜... 八十九夜... 九十夜... 九十一夜... 九十二夜... 九十三夜... 九十四夜... 九十五夜... 九十六夜... 九十七夜... 九十八夜... 九十九夜... 百夜...

新井 地味 岩水 人 五 逢 無

水吉の村... 松の木の葉... 秋の風... 田舎の...
...
ノミカ
ヨコテ
ヨウヤ
カサカ
カナリ
ユキ
ミタケ山
下村
カヤバ
カサカ
ヨウヤ
カナリ
ユキ
ミタケ山
下村

九時... 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

水吉の村... 松の木の葉... 秋の風... 田舎の...
...
ノミカ
ヨコテ
ヨウヤ
カサカ
カナリ
ユキ
ミタケ山
下村
カヤバ
カサカ
ヨウヤ
カナリ
ユキ
ミタケ山
下村

九時... 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

根之
本根
卯六有
系



竹
美

中

中

中

十艸舎一水坪

桂樹... 九茎 象仁

天世、嘉月

地、紫仁

人、二、万秋

富、白、子

喜、河、月

一、草、迹、佳、品

月、山、竹、成、草

歌、山

子、の、出、た、る、を、一、つ、く、ま、ふ、り

一、山、月

山、の、の、り、を、山、の、の、り、を、山、の、の、り、を

一、山、月

山、の、の、り、を、山、の、の、り、を、山、の、の、り、を

一、山、月

山、の、の、り、を、山、の、の、り、を、山、の、の、り、を

一、山、月

山、の、の、り、を、山、の、の、り、を、山、の、の、り、を

一、山、月

山、の、の、り、を、山、の、の、り、を、山、の、の、り、を

一、山、月

山、の、の、り、を、山、の、の、り、を、山、の、の、り、を

一、山、月

わさきはちのち... 木... 水... 山... 竹... 草... 虫... 鳥... 魚...
わさきはちのち... 木... 水... 山... 竹... 草... 虫... 鳥... 魚...
わさきはちのち... 木... 水... 山... 竹... 草... 虫... 鳥... 魚...

一 扇 凌 奈 景 庭 相 綴 万 民 我 堂 庭 笑 赤 子 一 層 古 其 移 一 里 新 紅 白 木 一 二 葉 柳 松 一
お 女 姉 南 垣 沼 磐 葉 橋 二 糸 葉 乃 笑 学 穂 乙 山 旅 志 在 也 性 辛 鹿 照 玉 井 水 自 右 掌 田 際 之 田 杉 原

わさきはちのち... 木... 水... 山... 竹... 草... 虫... 鳥... 魚...
わさきはちのち... 木... 水... 山... 竹... 草... 虫... 鳥... 魚...
わさきはちのち... 木... 水... 山... 竹... 草... 虫... 鳥... 魚...

一 扇 凌 奈 景 庭 相 綴 万 民 我 堂 庭 笑 赤 子 一 層 古 其 移 一 里 新 紅 白 木 一 二 葉 柳 松 一
お 女 姉 南 垣 沼 磐 葉 橋 二 糸 葉 乃 笑 学 穂 乙 山 旅 志 在 也 性 辛 鹿 照 玉 井 水 自 右 掌 田 際 之 田 杉 原

橋本屋三郎評

天七五半 地七五半 露口 人六五半

高木 由女 學堂 子産 我笑 柳志

子産を以て... 橋本屋三郎... 天七五半... 地七五半... 露口... 人六五半... 高木 由女 學堂 子産 我笑 柳志... 橋本屋三郎評

招き市評行ハ月分

天七五半 笑山

地七五半 露口

人六五半 笑山

招き市評行ハ月分... 天七五半 笑山... 地七五半 露口... 人六五半 笑山... 招き市評行ハ月分

わがやうなものは、いろいろあるが、その中でも、最も美しいのは、
秋の紅葉である。紅葉の美しいのは、何故か、秋の風が、木の葉を
揺らすからである。木の葉は、緑から黄色、オレンジ、そして赤へと
変化する。これは、木の葉の中の色素が、分解されていくからである。
紅葉の美しいのは、秋の風が、木の葉を揺らすからである。木の葉は、
緑から黄色、オレンジ、そして赤へと変化する。これは、木の葉の中の
色素が、分解されていくからである。紅葉の美しいのは、秋の風が、
木の葉を揺らすからである。木の葉は、緑から黄色、オレンジ、そして
赤へと変化する。これは、木の葉の中の色素が、分解されていくから
である。

古井... 九... 山... 月... 水... 玉... 秋... 風... 揺... 葉... 変... 色... 黄... 橙... 赤...
古... 井... 九... 山... 月... 水... 玉... 秋... 風... 揺... 葉... 変... 色... 黄... 橙... 赤...

紅葉の美しいのは、秋の風が、木の葉を揺らすからである。木の葉は、
緑から黄色、オレンジ、そして赤へと変化する。これは、木の葉の中の
色素が、分解されていくからである。紅葉の美しいのは、秋の風が、
木の葉を揺らすからである。木の葉は、緑から黄色、オレンジ、そして
赤へと変化する。これは、木の葉の中の色素が、分解されていくから
である。紅葉の美しいのは、秋の風が、木の葉を揺らすからである。
木の葉は、緑から黄色、オレンジ、そして赤へと変化する。これは、
木の葉の中の色素が、分解されていくからである。紅葉の美しいのは、
秋の風が、木の葉を揺らすからである。木の葉は、緑から黄色、
オレンジ、そして赤へと変化する。これは、木の葉の中の色素が、
分解されていくからである。

古... 井... 九... 山... 月... 水... 玉... 秋... 風... 揺... 葉... 変... 色... 黄... 橙... 赤...
古... 井... 九... 山... 月... 水... 玉... 秋... 風... 揺... 葉... 変... 色... 黄... 橙... 赤...

玉席亭評

天井、万葉 地、万葉 人、折風

卷八 昇月、翠菊、管音、一、遊、馬指、赤、赤、如

秋風子、まの、まの、付、や、豆、を、秋、
 暮、秋、子、又、も、ま、の、ま、の、秋、を、
 古、の、ま、の、ま、の、ま、の、ま、の、秋、
 昇、る、日、や、ま、の、ま、の、ま、の、秋、

再、考、十、一、
 秋、風、子、ま、の、ま、の、付、や、豆、を、秋、
 暮、秋、子、又、も、ま、の、ま、の、秋、を、
 古、の、ま、の、ま、の、ま、の、ま、の、秋、
 昇、る、日、や、ま、の、ま、の、ま、の、秋、

柳、赤、赤、如、
 管、音、一、遊、馬、指、
 翠、菊、
 昇、月、
 地、万、葉、
 天、井、万、葉、
 人、折、風、
 玉、席、亭、評、

孟考後多用付七月分休舎にりて日限國に此出以存希